

であり手すか、若し政府にして然令をの一二訓を十七種
も会社を補助して支出せざるを得らば、是れ尙接せば
るが、

個人若くは一会社の利益保障の意に多象災民の幸
國を脅かす

との大詔に反くの結果を生み、従つて、
人心動搖して底止する虞を知らず、悞深く之を

憂揚す

この大御心に對して、四罪の大なるものあるを思はね
ばなりませぬ。

保険金問題には、被保険者對保險会社の問題として、放
任せられて可なるべし。高工業の復興助成、金融關係の
保護其他に就いては、民衆本位の政策的條件の下に、資

件後助に可成りべく、二れ以上に出来るは凡て曰偏頗
たるを免れず、帝都の外形は急復興し發展するを得た
に對して、その内實は其以上の改善と存し、逆方では
震災前既に窮状を呈して居た民衆の全国的窮道を助長す
るの結果を蒙るべし事を信じて疑わぬ也故に、
保險金の拂渡いは、少数の貧家屋所有主を稱せしめ非
ず。然し乍ら今回の震災は、他により多数の窮民を生み
ました。家主等は復活し、資本家等は復興して、存子に
貸家を貸與へ、労働者は労働口を得させます。然し乍ら
それだけでは、多象災民の幸國に保するに足らず、且つ
一個人又は一会社の利益保障のみ一幸に墮せず居る心事
が炳乎として明らかでありませぬ。
果多くも至上階下には、大心の動搖を深憂し給ひ、